

皆様、こんにちは。
府中教会、アンドレアです。

今日の福音のテーマは、キリスト教共同体における兄弟姉妹としての忠告、すなわち他のキリスト者がよくない行いをした時に、その人に忠告しなければならないということです。イエスは、兄弟姉妹が自分に対して罪を犯し、危害を加えたら、その人に対して思いやりを持ち、最初に二人だけで話をして、相手の発言や行動が誤っていることを説明しなければならないと教えておられます。それでも忠告を受け入れなければ、共同体に申し出なければなりません。共同体の言うことも聞き入れなければ、その人自身が招いた亀裂や孤立によって兄弟姉妹との信仰における交わりが損なわれていることに気づかせなければなりません。

これらの行程が示しているのは、主は道からそれてしまった兄弟姉妹が迷子にならないように寄り添うことを、ご自分の共同体に求めているということです。共同体の中でうわさや陰口をしないことが、とりわけ重要です。この方法を用いれば、相手をことばで傷つけたり、いのちを奪ったりせずすみませす。ことばも人を殺すことがあるからです。不当な批判をしたり、兄弟姉妹をことばで「ののしったり」したら、相手の信望を傷つけてしまいます。

実際、わたしたちは皆、神の前では、ゆるしを求めています。イエスは、決して人を裁いてはならないと言われました。兄弟姉妹としての忠告は、キリスト教共同体で行われるべき愛と交わりのしるしです。それはむしろ、奉仕し合うことです。その奉仕は、自分が罪人であり、主のゆるしを求めていることを各人が認識しているときにのみ行われ、役立ちます。そのような良心を抱くことによって、わたしたちは他者の過ちに気づくと同時に、自分も以前に同じような過ちを犯したこと、そして自分もたびたび過ちを犯すことを思い起こすことができると思います。

